

学 習 計 画		2 学年	(科目名 宗 教)
学 期	学習項目	学習内容・方法	
1 学期	第一章、「生い立ち」 ・時代の背景 ・身分秩序と窮乏に喘ぐ農民 ・宗教概観	<p>教祖の出生と生い立ち。</p> <p>生活苦と貧困、現代社会との比較。</p> <p>庶民の信仰状態及び、何故宗教に救いをもとめるのかなどについて考えていく。</p>	
	第二章、「養子にいく」 ・儒教的精神	<p>教祖の家庭環境や人柄について。</p> <p>宗教的精神が人々の生活にどの様な機能をはたしているかについて。</p>	
	第三章、「家を継ぐ」	同 上	
	第四章、「子供の生と死」 ・生老病死	<p>人生苦とは何か、宗教的なものの考え方、受け取り方について教祖の生き方にみる。</p>	
2 学期	第五章、「苦難とのたたかい」 ・陰陽道、厄年	<p>日柄方位の俗信、厄年とはどういうものなのか、様々な迷信に翻弄される民衆と、今日の社会での現状について述べる。</p>	
	第六章、「神との出会い」 ・煩惱深重の凡夫	<p>人間の弱さや、いたらない自分であること、誰もが凡夫であることの自覚。</p>	
	第七章、「神のおためし」	<p>金光教祖のいう修行内容とその目的。</p>	
	第八章、「あいよかけよの取次」	<p>立教神伝、神命により農業をやめ難儀を抱える人々の救済活動に専念する教祖とその家族の姿。</p>	
	第九章、「迫害に耐えて神前奉仕」	<p>受難に際しての教祖の信仰姿勢から学ぶもの。</p>	
3 学期	第十章、「生き神として世の柱に」	<p>おかげの意味や解釈の仕方、また日常生活をふりかえり、様々な恩恵を受けている自分である事を知る。</p>	
	第十一章、「神・人との取次」	<p>取次という救済方法、「あいよかけよ」と表現される神と人との関係について述べる。</p>	
	第十二章、「世界人類の救いの神」	<p>教祖の帰幽。</p>	
